

三鷹市障がい者地域自立支援協議会（令和5年度第5回）議事要旨

日時：令和5年11月30日（木）18時30分～20時00分

場所：教育センター3階 大研修室・オンライン

出席委員：片桐朝美、岡田敏弘、新津健朗、高橋みゆき、平松百花、赤岡かおる、土屋秀雄
大野通子、中野昭精、瀧澤勤、加藤亮一、豊田未知、海老原恵理子、鶴田明子
上野たか子、春日里江

事務局：立仙障がい者支援課長、荻野障がい者相談支援担当課長、他 9名

傍聴者：1名

（順不同、敬称略）

<配布資料>

- ・席次表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料1）
- ・委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料2）
- ・共同生活援助日中サービス支援事業所開設について・・・・・・・・（資料3）
- ・意見シート内容について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料4-1）
- ・第3回グループワークのまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料4-2）
- ・第三期三鷹市障がい者（児）計画のビジョンについて・・・・・・・・（資料4-3）
- ・第三期三鷹市障がい者（児）計画体系案（前回提示案との新旧対照表）・・・・（資料4-4）
- ・第三期三鷹市障がい者（児）計画（素案）・・・・・・・・・・・・・・・・（資料4-5）
- ・第三期三鷹市障がい者（児）計画のスケジュールについて・・・・・・・・（資料5）
- ・三鷹市障がい者地域自立支援協議会について・・・・・・・・・・・・（資料6）
- ・第5回タイムスケジュール（予定）
- ・意見シート

<持参資料>

- ・第二期三鷹市障がい者（児）計画
- ・令和4年度三鷹市障がい者等の生活と福祉実態調査報告書（概要版）
- ・令和4年度三鷹市障がい者等の生活と福祉実態調査報告書

1 共同生活援助日中サービス事業所開設について

○ 事務局

共同生活援助日中サービス支援事業の開設には、自立支援協議会で協議が必要であることを説明。

○ 開設予定事業者

（資料3）を用いて共同生活援助日中サービス支援事業所開設についての内容を説明

○ 会長

事業所開設に当たって、委員の皆様のご意見を頂戴したいとのことだが意見がある方はい

るか。

○ A 副会長

当法人は、知的の障がいの方を中心に各種施設を運営し、8年前に女性専用のグループホームも開設した。重度の方の居住整備は全国的に進んでいないことを考えると、今回のお話は意義あるものだと感じた。これを契機に、三鷹を中心に近隣の市町村でも重度の方の居住整備が進むことを期待している。

○ A 委員

日中サービス支援型の事業所について、私たちの法人も令和6年の12月の開設に向け準備をしている。障がいのあるご高齢の方や、重度の方達の居住施設は足りていない。地域に根ざした住まいが必要だと思うので、顔の見える関係で住む方たちの生活の場ができていったらよいと思う。

○ B 委員

就労支援の関係で、開発予定事業者さんと関わらせていただいております。就労を支援する会社だと思っていたが、今回初めて共同生活援助に取り組まれた背景やきっかけ、どのようなビジョンを見据えているか等を教えていただきたい。

○ 開発予定事業者

これまでは、就労に関することや、子どもの療育の部分で運営を行っていたが、利用者の方から働くこと、学ぶことももちろんだが、生活する部分の困りごとも伺っていた。

ライフプランニングの観点では、重度の障がいのあるご家族から親亡き後の住まいをどう考えればよいのかといったお声も多くいただいている。また、弊社の従事者の中でも過去に施設での勤務経験がある方も多くおり、社内からも共同生活援助日中サービス事業に取り組んでいくべきではないかといった意見も多く上がっていたため、今回の開設を検討する運びとなった。

○ 会長

他にご意見はあるか。無いようなので次第2の第三期三鷹市障がい者（児）計画策定について、事務局より説明をお願いする。

2 第三期三鷹市障がい者（児）計画策定について

○ 事務局

（資料4-1）から（資料5）を用いて第三期三鷹市障がい者（児）計画策定について説明。

○ 会長

事務局から素案について説明をいただいたが、ビジョンがまだ確定していない。

（資料4-3）で提示した3番目のビジョンに書かれている「持てる能力を最大限に発揮し」という内容で皆様に提案させていただいたが、ご意見ある方はいるか。

○ C 委員

「最大限」という単語がやっぱり引っかかる。持てる能力を最大限発揮しないと「自立生活ができるまち」にならないのか。持っている能力の部分はそこまで出さなければならないものなのか。

計画の対象が当事者の方々といった認識であれば、当事者の方に意見を伺いたいし、全て

の人が対象となるならば、「最大限に」と言われるとすごく重たいと感じる。

○ D委員

私も最大限に発揮するというよりは、発揮できるまちづくりというのが大事だと思うので「発揮し」より「発揮でき」といった文言はどうか。

○ A 副会長

「発揮し」となると、プレッシャーになってしまうような側面を個人的に受けたので、私もD委員と同意見だ。

○ B委員

改定部分の「最大限引き出し」の「最大限」は、本人にかかっている言葉ではなく支援者や地域にかかっている言葉だと思う。「最大限」を付けるのであれば、本人サイドではない部分にかかるような文章の作りをする必要があるのではないか。

本人が力を発揮できるのは、地域や社会の支援や環境と、本人の相互作用があつてのことだと思うので、ビジョンの中にご本人も取り組むし、周りの支援者も、地域もみんなが一体になって取り組みますよといった文章の方が納得できる感じがする。

○ E委員

持てる能力を最大限発揮とあるが、障がい別に力を最大限に引き出す支援が分かったうえでこのような文章になっているのか。言葉としてはまとまっているが、根本にある具体的な内容を分かったうえでの文章なのかどうか確認したい。

○ 事務局

事務局でも、最大限をどういう意味合いで使用するか議論があつた中で、一つの方向性として一致したのはビジョンのすべての主語が、「だれもが」というところ。障がい者も健常者も誰もが持てる能力を最大限に発揮できることが理想としていくのが一番いいのではないか。具体的な方策や支援の在り方等については、計画の中でできるだけ盛り込んでいきたいと考えている。

○ C委員

「持てる能力を最大限に発揮し」の部分は取ってもいいのではないかと思う。ただ、当事者の方達には受け身の体制ではなく、自分たちの力も出して初めて地域の中で生かされるということを知ってもらいたいと思う。

事務局から、ビジョンの対象は全ての人と説明があつたが、障がい者（児）計画の言葉の中なので、全ての人達に込めたメッセージと言われても中々響かないのではないか。

○ F委員

持てる能力を最大限発揮するのは当事者達の願いでもあると思うが、最大限という言葉はやはり重たいと感じる。取るのであれば、「個性を生かしつつ」の部分に能力も生かしてほしいと思うので、「だれもが地域社会の中で個性や能力を生かしつつ、社会の構成員として自立して生活できるまち」ぐらいの言い方にするのはどうか。

○ G委員

「最大限に発揮し」はきついなと思う。障がいの有無に関わらず、どのくらい発揮するかは本人が決めていいことではないか。

自分が望めばその力を発揮できる。社会としては、それを望んでいるのであれば最大限に

引き出す努力をする、環境をつくるよっていうことを求めているのではないかと思う。

○ 会長

「持てる能力を最大限に発揮し」は削除で、「だれもが地域社会の中で」という文から始まり、「能力を」という文言を追加するという提案だがどうか。

○ H 委員

3番の「持てる能力を発揮できる」という部分が一番大事なポイントとっており、その部分がなくなると現行のものとほぼ変わらなくなるので、やはり「持てる能力を発揮できるまち」という文言は必要だと思う。

地域社会の中で個性を生かしていくのが難しい方、社会の構成員として自立して生活するのが難しい方でも持てる能力を発揮するのはできるのではないか。そうすると、この一文がなくなるのはどうなのかなと思う。

○ C 委員

11月にアール・ブリュットみたか2023が開催され、就労ではなく芸術の部分の能力を地域等の方に見せることができたのは三鷹の大きな成果だったと思う。

本人が持っている能力に、支援者や地域の人達の力が加わることで最大限に引き出すことに繋がるかもしれないと感じた。

「能力を発揮し」の能力の部分が、どの言葉にかかるかによって変わってくるのではないか。「個性や能力を生かし」の部分に何かを足せば、良くなると思う。

○ A 副会長

環境因子や、個人因子、活動参加、その人の心身状態や健康状態等がそれぞれ相互作用し合うICF（国際生活機能分類）という考え方がある。

私は、包括的な捉え方で「持てる能力を最大限に発揮し」という文言を捉えていたので、そんなにプレッシャーにはならないと思っていたが、いろんな捉え方があると思うので、こういった議論は、意義あることだと感じている。

○ 事務局

「最大限に」を削除するのは皆様の共通意見かと思う。その中で能力が発揮できる環境や発揮できる意識など、皆さんの姿勢が地域社会に求められているところであり、アピールしていきたいと思っている。

障がいの有無や種類を問わず、どんな方も能力を発揮できる、そんな地域社会を目指しているといった意味を含め、最初を「持てる能力が発揮でき」という文言に修正し、その後は変更なく「だれもが地域社会の中で個性を生かしつつ、社会の構成員として自立して生活できるまち」というビジョンを改めて提案する。

○ B 委員

現行ビジョンは、全ての文章の最初に「だれもが」という文言が入っており、その部分を強調した文になっていると思うが、今回のビジョンは、一番上のみ「だれもが」の文言が最初に入っていて、2番目3番目は間に入っているのだが何か意図があるのか。

○ 事務局

第二期三鷹市障がい者（児）計画では、「だれもが障がいの有無によって分け隔てられることなく」といったビジョンが3番目だったが、このビジョンが一番大きく目指すものではない

いのかと思い、今回1番目に持ってきた。

2番目、3番目のビジョンでは、第2回目の協議会から委員の皆様にご議論いただき、障がいのある方の自らの意思が尊重されなくてはならない、3番目のビジョンにある「持てる力が発揮できるまち」というのが必要だ、といったご意見をいただいたので、1番がベースになり、2番目、3番目でさらに意思が尊重され、力が発揮できるまちをつくっていきましょうよといった思いを込めてこのビジョンで提案した。

○ B委員

事務局の思いをどこかに書いたほうがよいのではないかと。

○ 事務局

まだ修正等が必要ではあるが、49ページの部分でビジョン作成に当たったの思いや説明を記載している。

今までの計画では、ビジョンの記載しかなかったが、今回、皆様で議論していただき、その思いを反映させたビジョンになっているので、そのような部分を説明として入れた。

55ページ以降の、各基本目標の最初のリード文の中で、どのビジョンに向かってこの基本目標の中で何をやっていくのかの説明を記載している。

○ 会長

3番目のビジョンは最大限というのを削除して、「持てる能力が発揮でき」という形で決定してよいか。

意見等無いようなので、この内容で協議会の意見を決定する。

3 三鷹市障がい者地域自立支援協議会について

次に次第3、三鷹市障がい者地域自立支援協議会について、これまで協議会のあり方について多くのご意見をいただいた。計画策定の部分が主になってしまい、いただいたご意見をどうしていくか、皆様で話し合う時間や、意見を言い合う場がなかったが、第5回と6回の協議会の中で時間を設けることができたので、皆様のご意見をいただきたい。

○ 事務局

(資料6)を用いて三鷹市障がい者地域自立支援協議会について説明。

○ 会長

皆様からは協議会のあり方について前向きなご意見をいただきたいと思う。この場で何かを決めるわけではないが、ご意見等ある方は挙手していただきたい。

○ I委員

私自身、この協議会に出るのは今期が初めてなので、これまでの議論や協議の経緯が正直分かっていない部分が多々あるが、先ほどのビジョンの部分で、皆様の立場や状況によって意見が違ったりする中で、一つにすり合わせていく流れがすごく良いと思った。

「だれもが」という文言がすごく大事で、この計画を読んだ方達が最終的に自分のことと捉えていただけたところがゴールではないかと思う。

Jリーグに浦和レッズというチームがあり、サポーターの方達がWe are Redsと連呼しているのだが、あれは選手だけではなく、サポーター込みでレッズじゃないかという話がある。三鷹市のこの福祉計画も同じ感覚で、市民の皆さんが障がいの有無にかかわらず、自分達

のものと思ってもらうのが目指すところであり、サッカーっぽくいうと、We are 三鷹ユニテッドというのが出来たらよいと思う。

生活支援部会では、だれもがいつでも使えるような居場所づくりが大事ではないかという話が出ており、この話題が今後のテーマになってくると思うので、任期の中で実現できるような活動に尽力できればと思っている。

○ J 委員

協議会の目的にもある地域課題について、相談事業所では連絡会等で地域課題を掘り起こし整理していこうとしている。

相談支援部会でも、研修の中でやろうとしているが、そこで出た課題等をどのようにして協議会に生かしていけばよいか見えてこない。今期は、実施できたことや次回に向けて検討することだけでも整理ができると思う。

相談支援専門員が受け取っている困りごとの声を協議会に挙げるのが役目だと思うが、出し切れていない。困りごとにおいて、どんなことが必要なのかは何となく相談支援の方で整理はできているので、計画の中で具体的なものとして検討していきたいと思う。

○ A 委員

福祉計画策定の1年がとても短い。皆さんの思いを込め議論していくことは大切だが、時間がかかるので、細分化しワーキンググループを作ったりして、委員の皆様が受け取った地域の声を計画の中に落とし込める時間を次期の時はうまくできると良い。

次回、実態調査を行っていくと思うが、調査に協力してくださった方から引き出した意見を、次の計画に落とし込んでいることが見える化していけると良いと思う。

また、各部会で様々な取り組みを行っていると思うが、それを続けていくことが大切だと思う。

○ C 委員

全体会に参加している方々全員が、意見を発言できる場にしたいと思うので、全員が発言できるような場を設けて欲しい。

生活支援部会の中で Web アンケートを実施したいといった話が出ており、今少し実験をしているところだ。

資料の4-1で Zoom や Slack の活用といったご意見が出ているが、今年度、マチコエの中で Slack をすごく活用し、やり方が分かればとても便利なものだと実感した。

実際に参加された方の中には、年配の方や、当事者の方がいたが説明を受け活用していた。

事務局の回答では、検討と記載があるが、みんなで課題を話し合える一つのツールだと思うので Slack も含め、何かしらの対策をしていただきたい。

○ B 委員

まず、この協議会を運営してくださっている皆様に感謝を伝えたい。

部会の引き継ぎについてだが、委員さんが代わるとその引き継ぎがうまくいかず、何をテーマでやってきていたかが途切れ、確認するところから始まるので、1年目が実働の動きにいかない年もある。

特に、新しく委員になられ部会に入ると、前の経過も分からない、何をやっているかも分からない状態なので、第1回の協議会の中で部会グループを作り、そこで顔合わせができる

とその後の動き出しがスムーズだと思う。

計画について、一生懸命計画を立てたものがどのように遂行されていて、その結果、どうなったのか確認する時間を親会の中で取れないことが一番もやもやしている。この計画を遂行するに当たっては、部会の中で、この計画に立てていること、部会で取り組んでいることである程度チェックができると思う。

その内容を、親会のところで報告していき、それを2年目、3年目と続けていけば、おのずと次の計画策定のところで課題が見えてくるといった、次につながるような話し合いができると思う。

時間に限りのあるのは分かっているが、ワーキンググループをつくって、課題によって担当を分けてその意見を次の計画に生かしていくなど、何か次につながることをしていきたい。

○ H委員

資料6の5番目について、2年目に書かれているの地域課題等の情報共有や解決に向けた協議を3年間でやっていくのが一番理想だと思う。

障がい者計画や実態調査は本当に大事なことだと思うが、別でチーム編成をしていただき、親会では、部会でも抱えているような問題を何か一つ3年間で実行していく、若しくは前回と変わったと実感できるような取り組みができる会にしていきたい。ただ、協議会の回数の足りなさや、計画と実態調査の割合の大きさが課題になってくると感じる。

C委員が発言したように、当事者の方の声を聞くのも、課題と情報共有が中心の親会であれば、もっと聞きやすいと思う。

4 その他

○ 事務局

(障害者週間関連行事の紹介)

○ 会長

今回は、令和6年1月25日(木)の午後6時30分から、教育センター3階の大研修室で開催いたします。